

県内全市町村で**応急危険度判定コーディネーター(466名)**を登録
—地震で被災した建物の二次災害を防止する**応急危険度判定のまとめ役**—

《**応急危険度判定コーディネーター**》

【**コーディネーターとは**】

①**概要**

- ・地震直後に実施する**応急危険度判定**を円滑に行う**まとめ役**として活動
(主に市町村職員)

②**活動内容**

- ・判定規模の把握・報告
- ・判定資機材の準備・配付
- ・被害状況に応じた判定エリアの設定
- ・判定班の編成, 活動手順の説明
- ・判定結果の取りまとめ・報告

【**訓練概要**】

- ・**応急危険度判定コーディネーター**の養成訓練を平成16年度以降, 毎年度1回実施
- ・DIGと呼ばれる災害図上訓練を実施
 - ※ Disaster (災害)
 - Imagination (想像)
 - Game (ゲーム)(地図を囲んで, 災害時の対応策を検討)



【**訓練結果**】

- 平成27年4月現在で,
- ①**合計466名**(うち市町村職員343名),
 - ②**県内全市町村各1名以上**
の**コーディネーター**を登録



地震発生後における**円滑な応急危険度判定活動が可能**

応急危険度判定活動状況



- 判定ステッカーは,
- ・**赤:危険**
 - ・**黄:要注意**
 - ・**緑:調査済**
- の3種類を使用

【**応急危険度判定とは**】

- ・地震直後に被災した建築物を調査し, **余震等による二次災害を防止するための制度**
 - ※建築物の倒壊, 外壁・窓ガラスの落下, 付属設備の転倒などの危険性を判定
- ・「**判定ステッカー**」を建築物の見やすい場所に表示し, 建物所有者・使用者・第三者(付近を通行する歩行者など)に**危険性を周知**
- ・2011年東日本大震災では, 14日間で**延べ929人**の県内判定士が**15,863棟**の判定を実施



コーディネーター訓練状況